

〈小学校高学年部門〉

優秀賞

【題名】 だれもがくらしやすい世の中に
【学校・学年】 米子市立明道小学校六学年
【氏名】 村上 結衣

わたしは、身の聞こえないメジャーリ
か、ウィリアム・ホイッセルを読んでどんな人
も住みよい世界をつくりたいと思いました。
世の中には、目が見えない人、耳が聞こえな
い人、体が動かない人、しゃがみこむのが
どがいます。私の弟も知的しょうがみがあり
ます。今は小学五年生です。勉強やしゃべ
ることが少し苦手です。気持ちのコントロールも
うまくすることができません。でも、本人は
ウィリアムと同じように全く気にしていません。
ん。何でもできると思っているし、やる気も
あります。どんなことにもせつ極的です。で
もこのことはかん算そうに思えるけど、意外
とむずかしいことです。私だったら一歩ふみ
出すだけでも、周りの目などを気にします。
弟は苦しいことも多いけど得意なことも多く
あります。でも、弟にとってくらじやすい世
の中ではありません。大きな声で話したり、
泣いたり、体は大きいけど、心はまだ追いつ
いていないので、周りから偏見の目で見られ

るときがあります。パラリンピックに出場している人やウィリアムさんはみんなにすごいなどみとめられているけど、他のしょうがいのある人達も一人一人、一生けん命生きています。だから私はそのことを知ってもいい、どんな人もくらしやすい世の中になりたいです。今は、ユニバーサルデザインやバリアフリーがふえてきています。そのことはとてもいいことです。でも、バリアフリーや、優先席のことをあまり分かっていない人がいることも事実です。知らない人に、もっと分かってもらえるようになるといいなと思います。スター選手になったウィリアムさんが、たくさんの人たちに手をふってもらったときのように、悲しいなみだではなく、うれしいなみだをながしてもらいたいです。そのためにもこれからはたくさんの人にしてあげよう。このときを理解してもらい、だれもがくらしやすい世の中になりたいです。